

令和 8 年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は、平成24 年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと考えております。

公表は、小学 6 年生、中学 3 年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県小・中学校学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立御船が丘小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	61.9	58	61.3	54
	(1.01)	(1.03)	(0.98)	(1.03)
R 8 正答率の全国比		0.95		0.95

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・全体の平均正答率は、県平均および全国平均を上回っている。
- ・学習指導要領の内容別では、ほとんどの内容において県平均を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」においては 0.8 ポイント下回っている。
- ・問題形式では、短答式においては、県平均を 8.2 ポイント上回っているが、記述式においては、県平均を 0.9 ポイント下回っている。
- ・問題の無解答率は、文章を読んで考えたことを、自分の経験と結びつけてまとめて書く項目が、県平均よりも 1.5 ポイントも高い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は、県平均を上回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、「データの活用」を除いて、県平均を上回っている。
- ・問題形式では、短答式が県平均を 5.4 ポイント上回っている。しかし、記述式については、県平均を 3.6 ポイント下回っている。
- ・無回答率は、ほとんどの問題において県平均を下回っている。「帯グラフから「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%を選ぶという問題での無回答率が 10.9 ポイントと最も高い。

【意識調査】

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」について、95.3%の児童が肯定的な答えをしている。県よりも 14% 上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、93.2%の児童が肯定的な答えをしている。県よりも 8.1% 上回っている。
- ・「月曜日から金曜日までの 1 日あたりの勉強時間」について、「30 分より少ない」と答えた児童の割合は 17.5%で、同校の昨年度との比較では、0.9 ポイント改善している。
- ・「土曜日や日曜日の 1 日あたりの勉強時間」について、「1 時間より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合は 46.6%で、同校の昨年度との比較では、ポイント 15.6 ポイント改善している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業づくりを行うために、生成 AI の活用方法を校内研修や校内研究で探り、学力の向上を図る。
- ・条件に合った文書を書くことができるように、自分の考えを書いたり説明したりする時間の確保や条件付き作文に取り組む活動の充実に努める。
- ・知識のアウトプットにとどまらず、それらを複合的に組み合わせて試行し、独自の見解を導き出せるような指導を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習の時間が昨年度より改善してきたことから、宿題の出し方を工夫し、児童の家庭での学習が意欲的に取り組めるようにする。
- ・普段（月曜日～金曜日）、読書をする割合が県や全国よりも少ないことから、読書を習慣化できる取り組みについて、「うちどく週間」などの取り組みを活かしながら家庭と連携しながら取り組んでいく必要がある。